

三郷町・七郷町

緊急号外号

(1975・3・20)

弥栄之郷共同体に

火災発生!

—母屋・新館を全焼—

申し訳ありません。大変なことをひきおこしました。

3月9日、メンバーの不注意による火災で、アシタマ1棟を残して、共同体の母屋・新館を全焼しました。幸い山林への類焼・ケガ人などはありませんでしたが、衣類・寝具を初め、春からの農作業に必要な農具・種など殆んどすべてを焼失してしまいました。共同体では、出火の原因、処理等の経過を徹底的に検討し、弥栄の運動に関わるすべての人々に対して自己批判するとともに、全力を上げて再建にとりかかります。

発行：大阪市東成区東成玉津郵便局留 コミュニ百人委員会

(郵便振替 94151)

火事は、3月7日朝、10日からの
キャンパに備え、部屋が片付け、家
の周囲の整理をしてきた。下
燃やしては、時に起った。

以前は、産先や道路わきで下
燃やしてはいたのだが、越冬中は、
屋と納屋を改造して新築の間、

却用のドラム缶を据えつけて
燃やしてはいた。危なくないよう
にと、いつもはふたを掛けては
いたのだが、その時は、下ミが多
かったのか、ふたを上げてはな
った。朝からみよつに生暖かり、春先
の強い風が吹いてはいた。

午前9時分、風にめわられた火
がまず新築の側面の雪がこぼれ燃え
うつり、次に屋根が燃え出した。新
築は屋根が、わら、かやまでできてい
るだけでなく、屋根裏にはわら束が

は、はいしまいこんであつたため、
みるみるうちに火は燃えひろがった。
電話がすぐ使えなくなった。この
電話は共通回線と、一軒が使えなく
なる。組全部が使えなくなるため
は分は、下の家へ1人知らせに走
った。

詳細報告

**30分間の
ぞきとぞきだ。**
「三焼却の火が燃えうつる

1人が鶏舎で仕事をしていたほか
あとのメンバーは家の近くで農作業
をしてはいた。川からバケツリレーで
消そうとした。しかし火の手わりは
早く、新築から母屋へ燃えうつり、
知らせで部落の人たちや、長安から
消防車が駆けついたら頃にはもう燃え

つきこまっていた。鎮火は10時
30分間の出来事だ。た。
持ち出せたものは、キャンパ準備
金、心とんろ組、キャンパーの薪物、
そしてわずかな身のまわり品。支払
う予定だった借地料の8万円、約25
万円相当の物資、そして金にはかえ
られず日運動の記録など、みんな
を焼けてしまった。

部落の人たちは、知らせでオ
ぐにかけつけてくれ、消火作業
をいっしょになつてやって下さ
った。また、炊き出しをしてもら
った。キャンパーを分宿させてもら
った。自用品、心とん、たにか
手を貸してはいた。この部
落の人たちの厚意で、共同体は日々
をもちこたえてはいる状態である。

私たちに 残されたものは

弥栄を訪れた人は覚えていてるでし

よう。皆で寝起きした、食事をした

話をした、あのなつかしいわらびき

屋根の母屋と新館。それが焼けてな

くなってしまいました。負傷者のな

かったこと、山火事に揺がらなかつ

たことは幸いだったのですが、現金

とふとん3組ぐらゐを持ち出せたに

だけで、全員、作業衣のまま焼け出さ

れてしまいました。

弥栄の郷共同体出発当初より、い

ろいろな人の手によって作られてき

た弥栄、今、その弥栄を守れなかつ

たことをおわびします。

焼けて一番口惜しいのは、もろも

ろの記録・資料がすっかりなくなつ

てしまったことです。直販出荷農家

のテータ・「がまの襦」のおしナ
ンパー・各キャンプ時のキャンパー
日記などなど。

が、有形のそれらは失っても、無

形の過ぎる年回が残っています。部

落の人たちとの関係、広島の消費者

弥栄之郷共同体救援委員会公発足

ー弥栄再建のためにあらゆる救援活動を行っていきたいと思ひます。ー

△活動内容▽

I. 救援物資の調達

- ①ふとん・毛布類 ②衣類 ③日

- 用・雑貨類 ④こたつ ⑤食器・

- なべ・ひま ⑥軍手・長靴・雨具

II. 救援カンパ

農具などが焼失したものの再購入、

新しく家を手にいれるための資金な

ど、約二〇〇万円のお金が必要。一

口五〇〇円で救援カンパを募ります。

△活動の経過を予定▽

たち。そして、今を小力こたえ、の
りこえてこそ、部落にもより一層喰
いこんでいけると信じます。

弥栄は再出発です。着のみのま

まから、もう一度、弥栄をつくろう

としていきます。

3.10.14 大阪周辺の救援物資調達

14夜 トラック(2)で広島へ物資輸送

15.16 緊急対策会議(広島供送センター)

日(火) 救援委オー一回会合

(7.15PMより四條殿こむうな)

△連絡先▽

救援物資は↓広島供給センターへ

(住所:広島市安古市町上安二〇三三岩井方

鉄道便なら、可部橋古市橋駅止が配達に

救援カンパは↓コミュニティ百人委へ

(住所:大阪市東成区玉津郵便局留
郵便振替:大阪944-151)

電話は↓月々金:9512 AM(06)15 出木
夜:10:30以後(06)7451 70:57 坂三万尾原へ



春キャンプを 救援キャンプに再編成!

—あなたにの暖かい連帯の手を—

赤栄之郷

共同体は今

度の火事まで

形あるもの

はアレハス

を残してす

ぐて失って

しまいまし

た。今、私

たちに残さ

れたもの、

そして来し

て後退させ

てはならな

らなものは、

これまで3年間の赤

栄の運動の成果である、部落の人々

この、あるいは赤栄の野菜を心持ち

にしてける広島の消費者の人々との

間に築かれた関係です。そのために

も、苦しむ状況ではありませんが、春

季ワーク・キャンプは、救援キャン

プとしての意味も合せて、予定通り

続けたいと考えています。

しかし、柱尼・寝具・食器など、

いろいろの面で不自由なことが多

く思っていますので、キャンプ参加希望

者は次の点を注意して下さい。

1. キャンプ参加は最低一週間に

して下さい。(2・3日だけの、

のやき見参加は遠慮して下さい)

2. 参加者は必ず、寝袋・毛布・

食器などを持参して下さい。

(当分の間、焼け残ったアレハ

ス(三階建)で生活します。大阪・

広島から救援物資は送って下さ

すが、足りないと恐れられますの

で、自分の生活できるだけのも

のは用意して下さい。

3. キャンプは可能なかぎり農作

業・ミニティンケを行ないます。

但、共同体再建のための労働・

活動にも参加して頂きたいと思

ひます。

4. 今後、キャンプ関係の通信、

連絡などは、救援委員会が行な

ります。収容人数・救援物資の

運搬などの都合がありますから、

参加期間、あなたにできること

など、早急に連絡して下さい。

5. 参加者は必ず、救援委員会に

連絡し、四糸帳をつける型入審

評で、事情を聞いてもらうよう

うにして下さい。

6. 京都神在住の方は、できるだけ

救援委員会の会合に参加して

下さい。

鉄はつたれるほど

強くしなやかに

赤栄が燃えた。

赤栄が灰になった。

俺たちがこの二年間、泥と汗にまみれて築きあげてきた、あの赤栄は今ももうない。

まったく予想以上にしなやかだったことである。先週天、赤栄から、大阪から、玄島に結集して、今年の活動方針、闘争方針を確認しあつたばかりであつた。……。

しかし、赤栄が燃えたことを聞いて以来、俺の心は赤栄は今まで以上に鮮明に、重々しいものとしてそ

の姿を現わしは

じめた。

俺の心は赤栄は燃えつたのはしなやかだった。

俺は当然のこ

とく、昔がう好きだった。豆灰とタイヤモンドの、一節を鬼に浮べた。

燃焼のまこと、なれり身より火花

の飛び散るさま

なれり身より火花、わが身をこがし

つつ自由の身となれるを

持てるものは失わゆるべきさだめにあるを

残るはただ灰とあらしのまこと深淵に落ちゆく昏迷のみなるを

永遠の勝利のあがつきに、灰の底深く、

らなことを……

形あるものはすべて、いつかは壊れるさだめにある。赤栄をほそれば今だ、たしかだ。

しかし、いかなる火も、人間の志まで焼き尽しはし得ない。

神の口はすらすらなの、ある日は神の無理なのみ。

ともかく俺たちは多く、いかに失った。神は俺たちを試して見るのか

も知れない。

無からか再出赤栄が出来るかどうか。先人たちがやってきたにような、

価値を創造できる民であるかどうかも。

俺たちがこの社会に異議を申し立て、もう一つの社会を創ろうとして

歩みを進めてきた道は、決して平坦

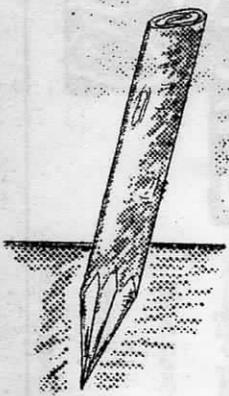
が道のりではなかつた。しかし俺たちは、「共同体志願者」を名乗り、世直しを共意して歩いてきた。

燃え尽き、灰になったもう一つの物質的なものに何の未練があろうか。俺たちが脱隊から拾いあげようとしているのは、さらに強固に鍛えぬかれた「コミュニオン」の志しと、さうに盡尽なる「コミュニオン」戦士の連帯である。

今、俺たちが求めるのは、「はかやろうつ、俺の赤栄を灰にしたおまえが許せないとどなりつけるおまえ。」

「俺の赤栄をこのままにほしておけなさい。赤栄に俺の手を灰を打ちこむんだ」と立ちあがるおまえ。

おまえがかりる限り、俺たちの赤栄は、たとえ灰になろうとも、そこにある。俺たちの赤栄は健在である。



焼跡に新たな杭を

打ちこむために

…弥栄之郷共同体再建のためのカンパを…

目標：200万円

1口 1000円 何口でも

送り先：コミュニオン百人委
(郵便振替 94151)

用途：プレハブ家屋建設

焼いてしまったものの再購入
(電話・電気・農具・etc.)

弥栄之郷共同体救援委員会

官僚主義的精神の超克

— 火事準備を準備してきたことの総括 —

30分。火はあつという間に家を焼きつくした。火事の原因は、事故が

いつもどうであるように、つまらな
いものだ。そこをいくらついても、
何も出てはこない。われわれが、明
らかにせねばならないのは、長い時
間の中で今回の火事を準備してきた
ものを、さらけ出すことだろう。

関係を 創り直す

信じられないほど単純なミスは、
明白に、ミスをひきおこす人間の意
識のボンシャルが低下していたこ
とである。そして、さらに深い問題
は、何よりも他者との関係を追求す
る場である共同体において、他者の

意識、行為の変革に有効な関わりを
持ち得なかつた集団の体質である。

☆ ☆

すべての集団は、常に官僚主義的
傾向に陥る危険性をばらんでいる。

弥栄もまた例外ではなかつた。火災
後の話の中でできた「一度は注意
したけど……」とか「危ないとは思っ
ていたが……」という言葉は、明らか
に官僚主義的なものではないだろう
か。ここで言う官僚主義的という意
味は、どちらかという、自らの内
にある隷属的・反自立的精神をさして
いる。決められたことだけをやり、
他者との関係を固定化して自分の力
に閉じこもり、その結果には目を

つがってしまつたというのでは、その
辺のお役所の小官僚と何らかわりが
ない。むしろ、はっきりした管理体
制がない分だけ、結果において負け
てしまつた。

内なる 官僚主義

われわれは、出発点において、自
立した個人・自発的な関係によって、
もつひとつの社会を形成しつるとい
う志を確認している。しかし、今、
認めなければならないのは、それを
お題目として唱えるだけでは、逆に
自分たちの中の官僚主義的傾向を助
長するだけに終っていたということ
だ。われわれのやり方は、お題目的
理想主義で何ができるか、ではなく、
現実の社会に對峙しつる社会を形成
していく過程で、どこまで、そのや

り方を違えていけていられるのかを検証していくことだ。

われわれが、今、ここで自分たちの中にある官僚主義を打ち破り、集団を組んでいることの重みを復権させる方途を見出さなければ、オオ、オオの火災は必らずやってくる。そして、屈折した形でしか、共同の責任をさとらえられないという、おじのな状況に追いこまれる。

ある種の 制度的保証

われわれは今、そのために、ある種の制度的保証を必要としているのではないだろうか。他者に対する意識的な関わりを保証し、集団を組んでいることの重みを、きりと認識しつるようにな。

もちろん、制度的保証がすべてを

解決しつると思えるわけにはいかない。制度は、最初に創り出されたときの意識が希薄になるとき、一人歩きし、人間を閉じこめていく。しかし、問題は、制度そのものにあるのではなく、その弊害と有効性をどうとらえ、どう運用していくかにある。ここで、そのすべてを検証することとはできない。しかし、われわれが、これを、結果を得るための制度としてではなく、過程における自己変革、自己訓練を、集団の相互教育によっておこなう制度としてとらえるなら、またその意識を持続させていくなら、大きな意味を持つはずだ。

われわれが、自立した人間として、社会を形成していくためのルールを自己の内に持ち得ていない以上、一度は、目の前には、きりと提示し、

それを内なるものとしていく作業をしなければならぬ。

☆

☆

大きな経済的負担をかかえて、栄は今、再スタートをきろうとしている。一度灰にして、つくり直さねばならぬ。たのは、家ではなくてわれわれ自身だ。その方途を自分たちのものとしたとき、栄は初めて火事そのりこえられる。